

## ネパール地震緊急救援活動 薬剤師編

薬剤師 雪本 江里子

国際緊急救援における薬剤師は、「メディカル・ロジスティクス (Medical Logistics)」というポジションで活躍することが多くあります。日本語に訳すと「医薬品物流調達管理」となります。日本語で書いても何のことやら、という印象を持たれるかと思います。業務内容としては、医薬品や医療消耗品の受領・保管・管理・提供・調達です。活動地で受け取った医薬品等を適切に保管・管理し、最後の受け取り手である患者まで届ける、ということですが。

医薬品のもつ特殊性により、管理はしっかりしなければなりません。食品保管と同様に温度や湿度管理が必要ですし、盗まれて不正に使用されては、人の命に関わります。日赤医療チームは医療物資を活動地に持ち込みますが、その数には限りがあります。また、救援活動における医療物資の供給は不安定で、必ずしも必要な医薬品がすぐに入手できるとは限りません。ですので、過剰に使用されていないか、適切に使用されているかなど、日々の在庫量などを見ながら目を光らせておく必要があります。

2015年4月25日の発災後、29日には日赤先遣隊による診療が始まりました。私は初動班として派遣され、現地に入ったのは5月2日でした。通常、日赤医療チームは単独で完結するように、医療資機材や人材が整備されていますが、今回の救援形態は、もともと存在する現地の診療センターの支援でした。物品管理上では、医療資機材は日赤が持ち込んだ物と、診療センターにある物の管理、という点で通常の形態と異なります。

また、通常の赤十字単独の活動形態であれば、活動地での寄付医薬品は、原則、受け取らないことになっていますが、今回は現地診療センターあてに寄付された医薬品なので、赤十字側としては受け取りを拒否することなどはできません。

しかし、大量の寄付医薬品をさばけるだけのスタッフはいなかったため、お手伝いをするに



医療物資保管部屋



大量に送られてくる輸液

なったのですが、雑多なものを仕分けするだけでも一苦勞で、収納するスペースもなければ、棚がありません。段ボールを利用しようにも、日本の様に立派な段ボールではなく、すぐにへしゃげてしまうものでした。一つの寄付医療物資の山を片付けても、次から次へと運ばれてきます。



期限切迫医薬品

くる寄付物品の間にギャップがあるのです。東北の震災でも同様のことは起きたようですが、国際救援においても何年も前から同様のことが繰り返されています。せつかくの善意の寄付が無駄にならないよう、また、受け取る側の利益を最優先にするようにと、WHOは寄付薬に関するガイドラインを定めていますが、周知が足りないのか、無秩序な医療物資の寄付は繰り返されているのが現状です。

このように、日々多種の医薬品が入庫し、在庫量も変化していきます。処方する現地医師もどの薬が現在使用可能なのか把握しきれず、欠品している薬を処方し、調剤する薬局スタッフが困っていました。そこで、毎日医療物資に触れている私は、出入庫・在庫の把握が容易であったので、診療センターで在庫している医薬品リストを作り、かつ、消費期限の情報も載せて、期限切迫品から優先して使用してもらうように処方医に働きかけました。また、欠品医薬品が入庫した際には声掛けをしたり、代替薬の提案などをしました。

寄付医薬品の管理と並行して、赤十字が持ち込んだ医療物資の管理も行い、どの様な物品が

日々、寄付物品と格闘していた訳ですが、寄付された物品の中で、処置用の手袋やお産で利用できるパッドなど、使用頻度の高い消耗品に関しては赤十字スタッフのみならず、現地医療スタッフにとっても喜ばれていました。しかし、一方で期限切迫品が含まれていたり、本当に緊急救援に必要な薬・物品だろうか、と思うものまでありました。現地が必要としている物品と、送られて



赤十字社が持ち込んだ医療物資



巡回診療でお薬を渡す様子

使用可能かなどの情報を医療スタッフに提供しました。また、巡回診療で使用する医薬品の選定を現地医師と相談して決定したり、使い勝手や数量等を看護師と相談しながら調整しました。

今回の派遣の前に、私はウガンダで開発系の事業に係わりましたが、緊急救援は今回が初めてでした。状況変化が目まぐるしく、開発事業の比較的ゆっくりとした支援とは全く異なりました。その時の状況に合わせた選択を、その都度下していく展開の速さには驚きましたが、そうしなければ、刻一刻と変わる状況にはついていけず、緊急救援には不可欠なものであると感じました。また、医療活動をする上で、それらを支える事務・技術系のスタッフがいなければチームは成り立ちません。チームで活動する上で、団結力や協調性なども重要な要素であると思いました。一方で今回は、現地診療センターに日赤チームの支援が入った形態ですので、現地のやり方や文化を尊重するのこともとても大事であると思いました。こちら側がよかれと思って提案しても、それが現地の方に必ずしも受け入れられるとは限りません。話し合いをしながら良い方向にもっていく、という開発事業での経験が活かされたと思っています。

最後に、国際緊急救援における薬剤師の役割ですが、医薬品等の管理に関してはやはり普段から業務としてこなしている分、薬剤師の得意分野です。メディカル・ロジスティクスの業務は薬剤師である必要はありませんが、医師は診療、看護師は看護、薬品管理は薬剤師、といった具合にそれぞれが専門性を活かすことで、よりよい救援活動ができるのではないかと考えています。薬剤師は薬に関する知識は問題ありませんが、消耗品や器具類の知識は不足しています。今後の私の課題として、医薬品だけでなく、器具類を含めた医療物資全般を学ぶ必要があると思っています。



発災直後の薬局の様子



薬局で調剤

(どんな薬が処方されているか把握)



現地スタッフにより整理された薬

(上の写真の頃よりきれいに整理されました)